

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成28年3月31日(2016.3.31)

【公表番号】特表2014-505535(P2014-505535A)

【公表日】平成26年3月6日(2014.3.6)

【年通号数】公開・登録公報2014-012

【出願番号】特願2013-547939(P2013-547939)

【国際特許分類】

A 6 1 B 7/04 (2006.01)

G 1 0 K 15/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 7/04 X

G 1 0 K 15/00 L

【誤訳訂正書】

【提出日】平成28年2月9日(2016.2.9)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

外耳道の封鎖の封鎖性能の指標を検出する方法であって：

前記外耳道内に設けられた外耳道マイクロホンからのマイクロホン信号を受信する手順

；

前記マイクロホン信号から第1信号を生成する手順；及び、

前記第1信号の周波数スペクトルの特性に応じて前記封鎖性能の指標を判断する手順；

を有し、

前記封鎖性能の指標が、上側周波数を有する第1周波数帯における組み合わせられた信号レベルと、前記上側周波数よりも高い周波数の第2周波数帯を含む周波数間隔における組み合わせられた信号レベルとの比較に応じて判断される、

方法。

【請求項2】

前記上側周波数は100Hzを超えない、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

前記第2周波数帯は、500Hz以上の上側周波数を有する、請求項1に記載の方法。

【請求項4】

前記封鎖性能の指標は、100Hz以下の上側カットオフ周波数を有する周波数帯での信号レベルの信号依存パラメータの関数として判断される、請求項1に記載の方法。

【請求項5】

基準を満たさない前記封鎖性能の指標の検出に応じて使用者への警告を発生させる手順をさらに有する、請求項1に記載の方法。

【請求項6】

前記マイクロホン信号に応じて使用者の運動特性を判断する手順、及び、前記使用者の運動特性に応じて前記封鎖性能の指標を判断する手順をさらに有する、請求項1に記載の方法。

【請求項7】

前記運動特性に応じて前記マイクロホン信号の処理パラメータを設定する手順をさらに

有する、請求項6に記載の方法。

【請求項8】

前記外耳道外部のマイクロホンからの周辺マイクロホン信号を受信する手順をさらに有する請求項1に記載の方法であって、前記封鎖性能の指標は、前記周辺マイクロホン信号に応じてさらに判断される、方法。

【請求項9】

複数のウィンドウの周波数スペクトルを平均化することによって前記周波数スペクトルを生成する手順をさらに有する、請求項1に記載の方法。

【請求項10】

前記マイクロホン信号に基づいて体内音の適用を実行する手順、及び、  
前記封鎖性能の指標に応じて前記体内音の適用の処理特性を適合させる手順；  
をさらに有する、請求項1に記載の方法。

【請求項11】

外耳道の封鎖の封鎖性能の指標を判断する装置であって；  
外耳道マイクロホンからのマイクロホン信号を受信する入力部；  
前記マイクロホン信号から第1信号を生成する回路；及び、  
前記第1信号の周波数スペクトルの特性にตอบสนองして前記封鎖性能の指標を判断する回路

；  
を有し、

前記封鎖性能の指標を判断する回路が、上側周波数を有する第1周波数帯における組み合わせられた信号レベルと、前記上側周波数よりも高い周波数の第2周波数帯を含む周波数間隔における組み合わせられた信号レベルとの比較に応じて前記封鎖性能の指標を判断するように構成される、

装置。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0031

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0031】

本発明の任意の特徴によると、前記第2周波数帯は、500Hz以上の上側周波数を有する。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0032

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0032】

これにより、閉塞効果、つまりは前記封鎖性能が実現されたという推定を特に有利となるように参照することが可能となる。一部の実施例では、前記上側周波数は700Hz又さらには1kHz以上である。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0094

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0094】

参照周波数帯は多くの実施例において有利となるように、500Hz以上の上側周波数を有して良い。特に多くの場合では、そのような高周波数が参照周波数帯に含まれることは、参照周波数が改善されるので有利である。

【誤訳訂正5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 9 7

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 9 7】

参照周波数帯は一部の実施例では有利となるように、500Hz - 場合によっては700Hz又は1kHz - 以上の下側周波数を有して良い。特に多くの場合において、参照周波数が改善されるので、高周波数のみが参照周波数帯に含まれることが有利である。